特集／戸井田 和之 石岡市長就任インタビュー　広告　企画・制作　建設未来通信社広告部

今を見て、未来を創る

～建設業の活性化が地域発展に必要～

市民ホールは再検討

ことし6月、石岡市長選挙において、多くの市民や各方面からの支援を得て初当選を果たした戸井田和之市長。「今を見て、未来を創る！」を掲げ、人口減少や少子高齢化、地域経済の活性化といった課題に正面から向き合う姿勢を示す。市民ホール建設計画の見直しや府中小学校・八郷地区統合小学校の建設、統合保健センターの建設、インフラ整備など多くの課題に全身全霊で取り組む考えだ。市民の期待を一身に背負う戸井田市長に、市政運営の基本方針や、地元建設業界への期待について話を聞いた。



◆プロフィール◆

戸井田和之（といた・かずゆき）　1964年10月生まれ。
石岡市出身。市議会議員、県議会議員を経て本年度から現職。

■就任の抱負

6月21日に執行された石岡市長選挙において、多くの市民や各方面から支援と信任を得て市政運営を担うこととなった。市民から託された期待と責任を胸に、全身全霊で市政運営に取り組む。

石岡市は歴史・文化・祭り・自然・商工業・農業が一体となった魅力ある街だが、最大の課題である人口減少や少子高齢化、地域経済の活性化、子育て・教育への支援、地域医療の充実、さらに厳しい財政状況など、取り組むべき課題は数多く存在する。

本市が抱える様々な課題に真正面から向き合い、「市民が安心して暮らせる石岡市」「子どもたちが希望を持てる石岡市」「未来に誇れる石岡市」を築くため、「今を見て、未来を創る！」の決意で市政運営に取り組む。

■市民ホールの建設について

複合文化施設の整備にあたっては、これまでの計画や検討経過、事業費、維持管理費、将来の財政負担などを改めて精査する。市民ニーズに加え、建設費、維持管理費、利用見込み、財政状況、既存施設との重複、将来の人口動態などを総合的に検討し、市として最適な方向性を判断する。

これまでの計画を一度立ち止まって検証し、財政面を含めてゼロベースで考え直す。将来にわたって持続可能な施設とは何なのか、財政的な持続可能性をしっかりと見極めた上で、石岡市にとって本当に必要な施設のあり方を判断していく。

■産科施設の誘致について

現在、石岡市には市内で安心して出産できる産科医療施設がなく、多くの妊婦が市外への通院・出産を余儀なくされている。少子化が進む中、安心して子どもを産み育てられる環境を整えることは、市の将来にとって非常に重要な課題である。

産科医療施設は単に出産を担うだけでなく、妊娠期から出産、産後まで切れ目のない支援を提供する子育て支援の中核となる存在だ。若い世代が安心して石岡市で暮らし、子育てを選んでもらうためにも不可欠な社会基盤である。

市では関係機関や医療法人との協議を重ねながら、産科医療施設の誘致に全力で取り組んでいる。医師不足など産科医療を取り巻く環境は全国的にも厳しいが、粘り強く取り組み、一歩一歩前へ進めていく。子育て世代からも「石岡市で暮らして良かった」と思える街づくりを目指す。

■府中小学校建て替え、八郷地区統合小学校の建設について

本市では「石岡市立小中学校統合再編計画」を策定し、小中学校の統合を進めている。2024年度に北小学校と統合した府中小学校は、築年数50年を超える校舎があるなど老朽化が進んでいるため、新たな校舎建設を進める。既存の学校施設の利用制限を最小限にするため、仮設校舎を必要としない工事計画で進める予定だ。

また、将来の児童数推移などを踏まえ、八郷地区の8校を八郷中学校との施設隣接型小中一貫校として統合する。教育課程や環境の連続性を持たせながら教育環境や学校施設を充実させ、児童が明日も通いたくなるような学校を目指す。



▲初登庁で支援者と記念撮影

■統合保健センターの建設について

石岡地区・八郷地区それぞれの保健センターは老朽化対策が必要であり、特に石岡保健センターはバリアフリー非対応となっている。両センターを統合・新設することで、利用しやすい施設として整備を進める。

新施設は大砂地区の「ふれあいの里石岡」に隣接する場所に建設予定であり、現在は敷地造成および建築設計業務を実施している。構造は鉄骨造平屋建て、建築面積は約2400㎡。保健センター機能に加え、子育て相談や発達支援指導を行う「こども家庭センター機能」も備え、健康と子育ての両面でサポート体制を強化する。

■道路などのインフラ整備について

インフラ整備は市民の安全・安心な暮らしを支え、地域経済や街の発展を支える重要な基盤である。道路や橋梁、上下水道などの老朽化が進む中、適切な維持管理と計画的な更新を着実に進める。また、近年頻発するゲリラ豪雨などの自然災害に対応するため、防災・減災の視点を取り入れた強靭なインフラ整備にも注力する。

地域経済や観光を支える上曽トンネルも開通し、更なる道路環境の充実が求められている。地域の実情を踏まえ、誰もが安心して移動できる交通ネットワークの構築を目指す。



▲地元建設業者と活発に意見を交換

■工事等の発注について

地元建設業者は地域社会の守り手であり地域経済の担い手である。その成長が地域の発展につながる一方で、資材価格・燃料価格の高騰や担い手の高齢化など取り巻く環境は厳しさを増している。持続的に担い手を確保するためには継続的な事業量が必要となる。

今後も財源確保に努めるとともに、適切な工期の確保と施工時期の平準化に取り組んでいく。

■地元建設業へのメッセージ

地元建設業の皆さまは、公共施設やインフラの維持管理、都市基盤の整備など、安全安心なまちづくりを共に進める重要な地域のパートナーである。建設業界がより活力に満ち、魅力的になることが地域の持続可能性にも直結する。

自然災害が増加する中、地域の守り手育成事業や災害協定に基づく迅速な対応は非常に頼もしい存在である。これまでの石岡市への貢献に感謝するとともに、より良い石岡市を創るため、共に行動していきたい。

地域社会の守り手として市勢発展に貢献します

茨城県建設業協会土浦支部 石岡分会

分会長　松永　英信（㈱松永工務店）

副分会長　岡﨑　二朗（㈱岡崎土建）　副分会長　大和田久進（東亜興業㈱）

理事　長谷川敏久（㈱長谷川工務店）　理事　白田　二朗（白田組土木㈱）　理事　路川　雅博（㈲路川工務店）

監事　篠﨑　正和（篠﨑建設㈱）　監事　櫻本　兼三（㈱兼祐）　顧問　飯村　一夫（㈲イイムラ）

㈱アレスコ	㈱キンダイ	㈱紺野工務店	㈱鈴木工務店	白田組土木㈱	双葉建装㈱
㈲イイムラ	九島産業㈱	堺建設㈱	㈲竹林組	白田建設㈲	平成建設㈱
市村土建㈱	㈱兼祐	㈱三企工業	千代田建設㈱	㈱長谷川工務店	㈱松永工務店
㈱大場工務店	㈱孝建	篠崎建設㈱	㈲塚田埋設工事	㈱日高建材	㈲路川工務店
㈱岡崎土建	興民建設㈱	㈲シンケン	東亜興業㈱	㈱広伝	㈱菱伸工営
㈱木村工務店	小桜建設㈱	㈱進貢	中沢機工㈱	福井建設㈱	